

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	41
基本施策	12	学校教育の充実	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実		

1 施策の概要

基本方針	児童生徒一人ひとりに配慮しながら個性を生かす教育を推進し、基礎・基本を定着させる授業と自ら学ぶ意欲を引き出す授業を充実する。 自然体験や職業体験、国際理解教育、情報教育、食育など、地域に根ざした特色のある学習を推進する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	「生きる力」の育成と新学習指導要領の実施に向け、基礎・基本を定着させる授業の実践をはじめとして、町内小中学校において円滑な移行の取り組みが図られている。	学習指導要領の基本理念である「生きる力」の育成のため、地域や学校の特性を生かした創意ある教育課程の編成をはじめ、学力向上に向けた取り組みの推進が図られている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	全国一斉学力テストの結果にもとづいた学校改善プランの確実な実施とともに、新学習指導要領に対応していくための関係する諸整備の充実と、小1プロブレムや中1ギャップ問題への積極的対応が必要である。	全国一斉学力テストの結果にもとづいた学校改善プランの確実な実施とともに、特別な支援を必要とする児童生徒の対応について、保育所、小学校、中学校及び高校の接続と連携を強化していく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	AETによる英語の児童・生徒1人あたりの時間数						
	定義等	英語指導助手による年間授業時間数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	児童47時間／年 生徒34時間／年	児童48時間／年 生徒38時間／年	児童48時間／年 生徒38時間／年	児童48時間／年 生徒38時間／年	児童48時間／年 生徒38時間／年	児童48時間／年 生徒38時間／年	児童48時間／年 生徒37時間／年
指標2	指標名	パソコンの児童・生徒1人あたり時間数						
	定義等	パソコンによる年間授業時間数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	児童124時間／年 生徒10時間／年	児童130時間／年 生徒35時間／年	児童130時間／年 生徒35時間／年	児童130時間／年 生徒35時間／年	児童130時間／年 生徒35時間／年	児童130時間／年 生徒35時間／年	児童132時間／年 生徒46時間／年
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	要保護・準要保護児童生徒援助事業	教育総務係	1,227	A	継続/現状維持	A
②	言語治療児童援助事業	教育総務係	269	A	継続/現状維持	A
③	遠距離児童生徒通学費補助事業	教育総務係	6	A	継続/現状維持	A
④	語学指導を行う外国青年招致事業	教育総務係	5,581	A	継続/現状維持	A
⑤	小中学校教師用指導書購入事業	教育総務係	1,259	A	継続/現状維持	A
⑥	社会科副読本作製事業	教育総務係	3,308	A	終了	A
⑦	雄武町特別支援教育推進事業	教育総務係	3,662	A	継続/現状維持	A
⑧	ふるさと教員配置事業	教育総務係	263	B	継続/現状維持	B
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	小中学校の教育内容の充実については、国の教育改革等の動向を見据えながら、義務教育を推進するうえで必要不可欠な施策である。
② 有効性	A	児童生徒の基礎・基本を定着させる授業と自ら学ぶ意欲を引き出す授業の充実がされ、有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	A	小中学校の教育内容の充実のため、最小の経費で最大の効果が得られるよう、補助財源の確保及び関係事業執行の工夫により、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	義務教育の対象となる児童・生徒の全員に受益が及びことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	小中学校の教育内容の充実については、学校評議員の配置及びPTA等により、町民意見の反映を行っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
小中学校の教育内容の充実を図るため、関係事業を効果的に進めたことにより、児童生徒の生きる力の育成及び学習意欲の向上が図られており、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性	継続/拡充	継続/拡充
<p>継続/拡充</p> <p>小中学校の教育内容の充実については、引き続き推進していくこととするが、特別な支援を要する児童生徒の対応について、保・小・中・高の接続と連携を強化する必要があるため、一部施策の拡充を図っていくものとする。</p>	同左	
<p>*今後の方向性の区分 <input type="radio"/>継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 <input type="radio"/>終了 <input type="radio"/>休止 <input type="radio"/>廃止</p>		

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	42
基本施策	12	学校教育の充実	評価 責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実		

1 施策の概要

基本方針	北海道教育委員会と連携しながら、研修の充実などにより、教職員等の資質と指導力を向上させるとともに、学校施設・設備の計画的な改修や、廃校施設、余裕教室の有効活用を進めるとともに、地域ぐるみの学校安全対策を推進する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	児童生徒の「生きる力」の育成のため、これまでも教職員の資質向上等を目的に研修の推進を進めてきており、児童生徒が学ぶ学校施設の整備も計画的に進めてきている。	児童生徒の「生きる力」の育成のため、これまでも教職員の資質向上等を目的に研修の推進を進めてきており、児童生徒が学ぶ学校施設の整備も計画的に進めてきている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	学校施設の老朽化に伴い、今後大規模な改修が必要とされるほか、周辺校の児童減少による学校の維持等に係る対応及び食育を含めた学校給食の充実を進めていく必要がある。	学校施設の老朽化に伴い、今後大規模な改修が必要とされるほか、周辺校の児童減少による学校の維持等に係る対応及び安心安全な給食の提供のため、学校給食衛生管理基準に基づいた学校給食センターの整備を検討していく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	耐震構造になっている小中学校の割合						
	定義等	町内全小中学校の耐震化整備率						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							100%
	実績値	50%	50%	100%	100%	100%		
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	山村留学推進事業	教育総務係	700	A	継続/現状維持	A
②	教育施設等管理委託業務	教育総務係	26,668	A	継続/現状維持	A
③	小中学校教育備品整備事業	教育総務係	6,042	A	継続/現状維持	A
④	各学校施設修理改修事業	教育総務係	2,204	A	継続/現状維持	A
⑤	生徒教育振興事業	教育総務係	1,836	A	継続/現状維持	A
⑥	学校図書整備事業	教育総務係	1,513	A	継続/現状維持	A
⑦	雄武町学校教育振興推進協議会補助事業	教育総務係	1,000	A	継続/現状維持	A
⑧	教職員教育振興事業	教育総務係	210	A	継続/現状維持	A
⑨	教育相談員配置事業	教育総務係	34	C	継続/現状維持	B
⑩	教委・学校間情報共有等ネットワーク整備事業	教育総務係	416	A	終了	A
⑪	学校環境整備事業	教育総務係	31,448	A	継続/現状維持	A
⑫	各学校給排水改修事業	教育総務係	0	A	継続/現状維持	A
⑬	共栄小学校開校100周年記念事業	教育総務係	800	A	終了	A
⑭	武道センター改修事業	教育総務係	5,103	A	終了	A
⑮	へき地小学校教員住宅水洗化改修事業	教育総務係	0	A	継続/拡充	A
⑯	教員住宅解体事業	教育総務係	5,355	A	終了	A
⑰	給食センター調理業務委託事業	学校給食係	13,734	A	継続/現状維持	A
⑱	学校給食センター施設整備事業	学校給食係	10,440	A	継続/現状維持	A

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	小中学校の教育環境の充実については、教職員の資質及び指導力向上のほか、教育拠点機関である学校及び学校給食センターに係る施設環境全般の向上を図るうえで重要な施策である。
② 有効性	A	小中学校及び学校給食センターに係る事業を講じたことにより、安心安全な環境が整備され、有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	A	小中学校の教育環境の充実のため、国の各種交付金を活用するとともに、計画的な関係事業の進捗により、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	義務教育の対象となる児童・生徒の全員に受益が及びることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	小中学校の教育環境の充実については、学校評議員の配置及び学校給食センター運営委員会の開催等により、町民意見の反映を行っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直しすることが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
小中学校の教育環境の充実を図るため、関係事業を効果的に進めてきたところであり、安心安全な環境が整備されていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性

継続/拡充	継続/拡充	
教職員の資質と指導力向上については、現行施策を維持し、学校及び学校給食センターに係る施策については、施設の延命化等を進めていく必要があるため、施策の一部拡充を図っていくものとする。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	43
基本施策	12	学校教育の充実	評価 責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	3	開かれた学校づくりの推進		

1 施策の概要

基本方針	学校・家庭・地域が連携し、特色ある学校づくりや地域に開かれた学校を推進するため、小中学校施設の地域開放の拡大や、PTA活動の活性化、学校評議員制度の活用などに取り組む。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	雄武小学校及び中学校には学校評議員が置かれ、定期的に学校における現況報告等がされている他、周辺校においても校区内のPTAにおいて地域参画が行われている。	雄武小学校及び中学校には学校評議員が置かれ、定期的に学校における現況報告等がされているほか、周辺校においても校区内のPTAにおいて地域参画が行われているとともに、読み聞かせやスキー授業の支援など、地域住民等による学校支援活動が行われている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	町民の小中学校への参画にあたり、地域全体に対する情報提供により学校活動への関心等が高められることから、地域全体的な周知の取組みを図っていく必要がある。	町民の小中学校への参画にあたり、地域全体に対する情報提供により学校活動への関心等が高められることから、地域全体的な周知の取組みを図っていく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	学校評議員等配置校数						
	定義等	学校評議員等が配置（類似形態を含む）されている学校数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値	全校	全校	全校	全校	全校		全校
	実績値	2校	全校	全校	全校	全校		
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	学校支援活動推進事業	生涯教育係	220	A	継続/現状維持	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	開かれた学校づくりの推進については、関係法令の要請があるとともに、学校に対する地域住民の参画推進を図るうえで重要な施策である。
② 有効性	A	学校評議員の配置、地域の活発なPTA活動及び学校支援活動推進事業等により、有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	A	開かれた学校づくりの推進のため、地域住民によるボランティアでの活動が実施されており、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	本施策の効果は、小中学校施設の学校開放等の地域住民に及ぶことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	開かれた学校づくりの推進については、学校評議員の配置及び地域の活発なPTA活動等により、町民意見の反映を行っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
開かれた学校づくりの推進を図るため、関係事業等の効果的な実施及び必要な支援を進めてきたところであり、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性	今後の方向性	今後の方向性
継続/現状維持	継続/現状維持	
学校、家庭、地域が連携し、特色ある学校づくりや地域に開かれた学校を推進していくため、現行施策を引き続き継続し、全学校の状況について、本町全体に情報周知する等の対応も進めていくものとする。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	44
基本施策	12	学校教育の充実	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	4	不登校等の子どもたちへのサポートの推進		

1 施策の概要

基本方針	いじめや不登校などに迅速・的確に対応するため、学校、家庭、地域の緊密な連携のもと、相談・指導を強化する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	学校、家庭、地域の連携のほか、教育相談員の配置により、いじめ等への対応が強化されてきている。	学校、家庭、地域の連携により、不登校やいじめ等への対応が強化されてきている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	いじめは絶対にあってはならないものであるが、不登校対応も含めて迅速・的確に対応するため、学校、家庭、地域の緊密な連携のもと、相談・指導を強化していく必要がある、特にインターネット社会での新たないじめを生じさせない対応も必要となっている。	不登校やいじめ等の対応について、迅速・的確に対応するため、学校、家庭、地域の緊密な連携のもと、相談・指導を強化していく必要がある、特に教育相談員については、未配置となっていることから、早期の人材確保を図っていく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	【再掲】雄武町学校教育振興推進協議会補助事業	教育総務係	1,000	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】教育相談員配置事業	教育総務係	34	C	継続/現状維持	B
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	不登校等の子どもたちへのサポートの推進については、日々の指導等の対応が重要であり、小1プロブレム及び中1ギャップへの対応を図るうえで重要な施策である。
② 有効性	B	関連する事業をはじめとして、学校・家庭・地域における日々の緊密な連携等により、概ね有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	B	平成23年度は、教育相談員が未配置となったが、日々の連携等において直接に予算支出を伴わず、概ね効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	基本的に義務教育の対象となる児童・生徒の全員に対象が及びことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	不登校等の子どもたちへのサポートの推進については、教育相談、学校評議員の配置及びPTAの活動等により、町民意見の反映を行っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
不登校等の子どもたちへのサポートの推進を図るため、日々の指導等の対応をはじめ、小1プロブレム及び中1ギャップ等の対応が図られており、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
いじめや不登校などに迅速・的確に対応していくためには、相談・指導体制の強化が必要であり、関連事業との相乗効果と併せ、新たな諸課題への対応のため、継続していくものとする。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	45
基本施策	12	学校教育の充実	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	5	高校への継続的な支援		

1 施策の概要

基本方針	雄武高等学校については、町外からの通学生に対する通学費補助や、部活動、芸術活動への補助を引き続き実施するとともに、地域が一体となった存続運動を展開していく。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	雄武高等学校の存続対策及び人材育成を目的とした町外生徒への通学費及び同校の部活動に対する補助制度は、同校の2間口の確保や魅力ある学校づくりへの推進に寄与している。	雄武高等学校の存続対策及び人材育成を目的とした町外生徒への通学費等及び部活動に対する補助制度並びに生徒の資格取得に係る助成制度は、同校の存続対策や魅力ある学校づくりへの推進に寄与している。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	雄武高等学校の存続対策として町外生徒への通学費補助制度を堅持しつつも、補助対象生徒の絶対数の減少等により、本制度による生徒確保の効果が及ばないことも懸念されるため、次善の策の検討とともに、道教委の方向等について留意していく必要がある。	雄武高等学校の存続対策として町外生徒への通学費等補助制度を堅持しつつも、補助対象生徒の絶対数の減少等により、本制度による生徒確保の効果が及ばないことも懸念されるため、次善の策の検討とともに、道教委の方向等について留意していく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	雄武高等学校振興事業	教育総務係	5,856	A	継続/現状維持	A
②	雄武高等学校存続対策事業	教育総務係	0	A	継続/現状維持	A
③	雄武高等学校生徒資格取得支援助成事業	教育総務係	41	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	雄武高等学校を地域の学校として存続させるためには、入学者の減少の抑制や魅力ある学校づくりを推進することが重要であり、引き続き行政の支援が必要である。本施策を実施しない場合、町外生徒の入学者数が減少し、生徒数が維持されず、高校存続にも影響を及ぼすことが想定される。
② 有効性	A	町外生徒の通学費等補助を実施したことにより、町外生徒の入学者数が増加しており、高校の存続が図られ、有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	A	町外生徒については、通学費等の補助の有無により入学者数に影響があることから、今後も補助支援が必要であると思慮され、現状においては、コストに見合った効果が得られていると判断する。
④ 公平性	A	通学費補助については、生徒の一部に対しての補助であるが、生徒の維持を図らなければ、高校存続にも影響することから、相対的な観点から公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	現行の補助・助成制度は、議会及び多くの町民の理解のもと実施している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
雄武高等学校の生徒数を維持するとともに、魅力ある学校づくりを推進し、地域の学校として存続するための支援であり、施策目的に沿った推進が図られていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
道教委が策定する「公立高等学校配置計画」の今後の計画が不透明な中において、雄武高等学校の存続を図るためには、生徒数を維持することが不可欠であり、魅力ある学校づくりのため、継続することが必要であるが、次善の対応策の検討も考慮していく必要がある。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	46
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	1	推進体制の強化		

1 施策の概要

基本方針	生涯学習・生涯スポーツ推進体制を強化するため、多様な媒体を通じた情報発信や、指導者の育成、統合型地域スポーツクラブの育成、さらには、行政職員や専門家、ボランティア等による出前講座のしくみづくりなどを進めるとともに、家庭教育の充実に向けた取り組みを進める。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	住民のニーズなどに沿った学習・スポーツの機会が持てるように、各種講座やイベント等の開催、文化連盟・体育連盟の各種自主活動の支援などを進めている。	住民のニーズなどに沿った学習・スポーツの機会が持てるように、各種講座やイベント等の開催、文化連盟・体育連盟の各種自主活動の支援などを進めている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	指導者の育成・確保や活動施設の確保、わかりやすい情報の提供などを通じて、「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、スポーツを楽しむまちづくりを進めていくことが必要であり、住民一人ひとりに対して、より裾野を広げていく必要がある。	指導者の育成・確保や活動施設の確保、わかりやすい情報の提供などを通じて、「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、スポーツを楽しむまちづくりを進めていくことが必要であり、住民一人ひとりに対して、より裾野を広げていく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	社会体育団体活動費助成事業	生涯教育係	540	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】社会教育関係団体活動費補助事業	生涯教育係	650	A	継続/現状維持	A
③	【再掲】家庭教育推進事業	生涯教育係	284	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	生涯学習・生涯スポーツの推進体制の強化については、生涯にわたる学習及びスポーツを行う機会の確保等を図るうえで重要な施策である。
② 有効性	B	本施策の実施により、少子高齢化等を背景に対象人口の緩やかな減少傾向はあるが、生涯学習・生涯スポーツ基盤の維持を図るとともに、家庭教育への間接的な支援等により、概ね有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	B	本施策については、生涯教育・生涯スポーツにおいて、自助・共助・公助の考え方により、行政は住民自身や団体等への推進環境の整備支援を行っており、住民主体による概ね効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	本施策の効果は、地域住民全体に及ぶことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	生涯学習・生涯スポーツの推進体制強化については、社会教育委員の会議等の意見を取り入れながら、対応を図っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
生涯学習・生涯スポーツの推進体制の強化については、住民主体の社会教育団体及び社会体育団体活動の促進により、生涯にわたる学習及びスポーツを行う機会の確保、向上が図られていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性	継続/現状維持	継続/現状維持
継続/現状維持	継続/現状維持	
生涯学習・生涯スポーツの推進体制については、引き続きその強化を進めることで、生涯にわたる学習及びスポーツを行う住民の割合を向上させていく必要があることから、本施策を継続していくものとする。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	47
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	2	学習・スポーツ活動の推進		

1 施策の概要

基本方針	住民一人ひとりの学習・スポーツニーズに応じた多様な講座・講演会・イベント等の開催と、自主サークルを活性化するとともに、学習・スポーツの成果発表の機会を拡大する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	生涯を通じ学習やスポーツの関わりを持たせるため、住民の年齢層に適應した機会の創出を図っている。	生涯を通じ学習やスポーツの関わりを持たせるため、住民の年齢層に適應した機会の創出を図るとともに、スポーツイベント参加者に対し助成を行い、スポーツ活動の促進を図っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、スポーツを楽しむまちづくりを持続的に進めていくために、今後も指導者の育成等を図っていくことが必要である。	「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、スポーツを楽しむまちづくりを持続的に進めていくために、今後も指導者の育成等を図っていくことが必要である。また、住民参加率の向上を図るため、住民が参加しやすい環境の工夫も必要となっている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	過去1年間の生涯学習の実施率（参加住民割合）						
	定義等	生涯学習に参加した住民の割合						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							48%
指標2	指標名	町主催学習講座の参加率						
	定義等	町民大学等への住民の参加率（まちづくりアンケート）						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	15.20%	15.00%	10.90%	11.98%	18.65%		30%
指標3	指標名	週に1回以上、スポーツ活動を行う住民の割合						
	定義等	住民のスポーツ活動の参加割合（まちづくりアンケート）						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値					48.65%		70%
指標4	指標名	町主催スポーツ講座の参加率						
	定義等	スポーツ講座の住民参加率（まちづくりアンケート）						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	16.30%	14.41%	12.90%	7.08%	16.01%		30%
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	生涯学習推進事業	生涯教育係	670	A	継続/現状維持	A
②	スポーツ大会推進事業	生涯教育係	355	A	継続/現状維持	A
③	雄武町スポーツ振興事業	生涯教育係	104	A	継続/現状維持	A
④	スポーツ教室推進事業	生涯教育係	116	A	継続/現状維持	A
⑤	スポーツ等宿泊招致調査研究事業	生涯教育係	0	B	継続/現状維持	B
⑥	スポーツイベント参加助成金	生涯教育係	180	A	継続/現状維持	A
⑦	オムイ杯交流パークゴルフ大会協賛金	生涯教育係	100	A	終了	A
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	学習・スポーツ活動の推進については、住民の世代層に応じた生涯学習や生涯スポーツの機会を提供していくうえで重要な施策である。
② 有効性	B	本施策の実施により、生涯学習や生涯スポーツへの参加意欲の高まりが見られ、概ね有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	B	本施策については、住民に対する周知啓蒙のほか、住民自身の意欲等に拠るところが大きいが、適正な事業予算執行のもとで、概ね効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	本施策の効果は、地域住民全体に及びことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	学習・スポーツ活動の推進については、社会教育委員の会議等の意見を取り入れながら、対応を図っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
学習・スポーツ活動の推進については、活動機会の提供及び活動の支援により、住民意識の向上が図られていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性	継続/現状維持	継続/現状維持
<div style="text-align: center;"> </div>	<div style="text-align: center;"> </div>	<div style="text-align: center;"> </div>
学習・スポーツ活動の推進については、住民が参加しやすい環境の工夫が必要であることから、本施策を継続していくものとする。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	48
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	3	青少年教育の推進		

1 施策の概要

基本方針	非行防止など、青少年健全育成活動を活性化するとともに、青少年の創造性と情熱をまちづくりに活かすため、子ども会やスポーツ少年団、青年まちづくり組織などを活性化する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	青少年の創造性と情熱をまちづくりに活かすため、子ども会やスポーツ少年団等の活動により、青少年教育の推進が図られている。	青少年の創造性と情熱をまちづくりに活かすため、子ども会やスポーツ少年団等の活動により、青少年教育の推進が図られている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	青少年健全育成活動等を進めて行く上で、地域全体が子どもたちを育てて行くという観点が必要であり、町内の子ども会指導者の参画のもと、より多くの子どもたちの参加を促進していく必要がある。	青少年健全育成活動等を進めていくうえで、地域全体が子どもたちを育てて行くという観点が必要であり、町内の子ども会指導者の参画のもと、より多くの子どもたちの参加を促進していく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	青少年健全育成活動の年間実施回数（民間・行政）						
	定義等	青少年の健全育成を目的とした活動回数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	9回	16回	12回	9回	8回		10回
指標2	指標名	子ども会の会員割合						
	定義等	子ども会の加入数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	29%	36%	38%	34%	37%		29%
指標3	指標名	スポーツ少年団員数の割合						
	定義等	スポーツ少年団の加入割合						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	17%	17.80%	16.85%	19.24%	19.52%		17%
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	武雄市児童交流事業	生涯教育係	2,356	A	継続/現状維持	A
②	家庭教育推進事業	生涯教育係	284	A	継続/現状維持	A
③	おうむ通学合宿事業	生涯教育係	0	B	休止	B
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	青少年教育の推進については、非行防止をはじめ、青少年の健全育成を図るうえで重要な施策である。
② 有効性	B	本施策の実施により、関係事業のほか、あいさつ運動等の日常的な取り組みにより、非行等の問題が生じていないことから、概ね有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	B	本施策については、関係事業のほか、日常的な活動中で行われており、概ね効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	本施策の効果は、対象となる青少年全体に及ぶことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	青少年教育の推進については、PTA及び町子ども育成会等により対応している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
青少年教育の推進については、日常的な活動を含む効果的な事業の実施により、健全な青少年教育が図られていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性	今後の方向性	今後の方向性
継続/現状維持	継続/現状維持	
青少年教育の推進については、青少年の健全育成を図る必要があることから、本施策を継続していくものとする。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	49
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	4	図書サービスの充実		

1 施策の概要

基本方針	ニーズに応じて蔵書・資料を充実するとともに、移動図書館の推進や利用時間拡大など、住民が利用しやすい環境を整備する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	図書館利用者の利便性の向上と図書の貸出冊数の増加を進めるため、図書館司書によるサービスの向上、蔵書数の増及び親しみやすい図書館の運営を図っている。	図書館利用者の利便性の向上と図書の貸出冊数の増加を進めるため、図書館司書によるサービスの向上、平日の開館時間の拡大及び蔵書数の増加により、図書館環境の向上を図っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	ニーズに応じて蔵書・資料を充実するとともに、引き続き移動図書館の推進や利用時間拡大など、住民が利用しやすい環境の整備が必要である。	蔵書・資料の充実に伴う開架スペースや閲覧・読書スペースの狭隘化など、利用者が読書活動や学習を行う環境整備を図っていく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	図書の町民1人あたり年間貸出し数						
	定義等	町民の図書貸出数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	4冊	4.7冊	6.1冊	7.1冊	5.7冊		10冊
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	読書促進事業	図書業務係	4,998	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】図書館施設改修事業	図書業務係	3,281	A	終了	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	図書館は、これからのまちづくりの拠点となる施設であり、図書サービスの充実については、住民に対する学習等の機会を提供していくうえで重要な施策である。
② 有効性	A	蔵書・資料の充実を図ったことにより、図書の貸出冊数が増加傾向にあり、住民の利用意欲向上が図られていることから、有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	A	図書サービスの充実のため、蔵書については、購入及び寄贈により充実を図るとともに、開館時間の拡大の対応については、職員の時間差での勤務体制により、効率的な運営を行っている。
④ 公平性	A	図書サービスの受益は、全住民を対象としているため、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	図書サービスの充実については、社会教育委員の会議のほか、図書館利用者の意見を取り入れながら、対応を図っている。

5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
図書館の利用者数や貸出冊数は増加傾向となっており、生涯学習としての住民の学ぶ機会の提供も図られていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性	今後の方向性	今後の方向性
継続/拡充	継続/拡充	
蔵書の充実については、現行施策を維持し、貸出冊数の増加を図っていくこととするが、狭隘化に伴う施設的环境整備については、住民各層の参画を得て、検討をしていく必要があるため、施策の一部拡充を図っていくものとする。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	50
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	5	施設・備品の有効活用		

1 施策の概要

基本方針	既存の施設・備品を有効に活用するとともに、地域住民の協力による管理・運営を進める。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	生涯学習・生涯スポーツの推進拠点となる社会教育及び社会体育施設については、既存施設等の有効活用をいっつつ、地域団体等による管理運営を進めている。	生涯学習・生涯スポーツの推進拠点となる社会教育及び社会体育施設については、既存施設等の有効活用をいっつつ、地域団体等による管理運営を進めている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	社会教育・社会体育施設については、適切な維持管理を行ってきているが、人口構成やニーズの変化等に適応する施設整備等が求められる。	社会教育・社会体育施設については、適切な維持管理を行ってきているが、人口構成やニーズの変化等に適応する施設整備等が求められる。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	町民センター施設更新事業	生涯教育係	14,343	A	継続/現状維持	A
②	社会教育事業用公用車更新事業	生涯教育係	3,188	A	終了	A
③	沢木公民館解体事業	生涯教育係	11,130	A	終了	A
④	社会体育施設委託業務事業	生涯教育係	6,544	A	継続/現状維持	A
⑤	農村広場改修事業	生涯教育係	1,533	A	終了	A
⑥	スポーツセンター整備事業	生涯教育係	5,093	A	継続/現状維持	A
⑦	図書館施設改修事業	図書館業務係	3,281	A	終了	A
⑧	【再掲】 武道センター改修事業	教育総務係	5,103	A	終了	A
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	社会教育及び社会体育施設等の有効活用については、住民に対する活動の場の提供と活動の促進を図っていくうえで重要な施策である。
② 有効性	A	施設・備品の有効活用については、各種団体への積極的な使用を進めているほか、地域団体等による管理運営の促進により、有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	A	施設・備品については、適切な維持管理を行っているとともに、町内業者への民間委託のほか、地域団体等への管理委託等により、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	施設等を活用する対象は、地域住民全体に及ぶことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	社会教育及び社会体育施設等の有効活用については、社会教育委員の会議のほか、社会教育団体及び体育団体等の意見を取り入れながら、対応を図っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
施設・備品の有効活用については、施設等の適切な維持管理等により、住民の生涯学習及び生涯スポーツの促進が図られていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性	継続/拡充	継続/拡充
継続/拡充	継続/拡充	
施設の管理運営については、現行施策を維持しながら進めていくこととし、今後、住民の人口構成やニーズの変化等に適応した施設整備については、施策の拡充を図っていくものとする。	同左	
*今後の方向性の区分 <input type="radio"/> 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止		

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	51
基本施策	14	芸術・文化の振興	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	1	歴史文化の保存と継承		

1 施策の概要

基本方針	町内の貴重な歴史文化遺産や史料を後世に継承していくため、文化財指定制度を検討するとともに、調査研究、発掘・記録収集、保存措置、住民への周知、収蔵・展示施設の設置などを系統的に進める。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	本町の歴史については、古くは竪穴住居群などの埋蔵文化財のほか、寄贈を含めた郷土資料についても歴史的価値の高い遺産として、数施設に分散保管がされている。	本町の歴史については、古くは竪穴住居群などの埋蔵文化財のほか、寄贈を含めた郷土資料についても歴史的価値の高い遺産として、施設に保管されているとともに、町広報誌による一般供覧化を図っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	歴史や文化に対する住民意識は高まりを見せてきており、町広報紹介等により、一般供覧等が求められている。	歴史や文化に対する住民意識は高まりを見せてきているが、郷土資料については、保管並びに広報誌での一般供覧化にとどまっており、展示スペースの確保を図る必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①						
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	B	歴史文化の保存と継承については、本町の歴史的な生活等を後世に伝えていくうえで必要な施策である。
② 有効性	C	歴史文化の保存継承については、直接的に効果が生じる施策の推進がやや弱かったところがあり、今後さらに施策の有効性を高めていく必要がある。
③ 効率性	C	歴史文化の保存継承については、施策を構成する事業展開がやや弱かったところがあり、今後さらに施策の効率性を高めていく必要がある。
④ 公平性	C	本施策については、住民全体に供覧可能な状況にはないが、町広報誌における郷土資料の紹介等により周知が図られている。
⑤ 町民意見の反映	C	歴史文化の保存継承については、社会教育委員の会議等の意見を取り入れているが、今後町民から広く意見を取り入れていく必要がある。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
D	D	
歴史文化の保存継承について、直接的に効果のある取組が弱かった面があり、必要な見直しを行いつつ、郷土資料の一般供覧化について推進を図っていくものとする。	同左	

今後の方向性

継続／内容の見直し・変更	継続／内容の見直し・変更	
歴史文化の保存事業について、計画的な施策展開事業の検討を行うとともに、郷土資料の展示については、住民各層の参画を得て検討し、推進していくものとする。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	52
基本施策	14	芸術・文化の振興	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	2	芸術・文化活動の促進		

1 施策の概要

基本方針	映画や音楽、演劇等の鑑賞会など、住民が身近に優れた芸術・文化にふれる機会を充実させていくとともに、陶芸など、住民の自主的な芸術・文化活動を支援する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	映画や音楽、演劇等の鑑賞会など、住民が身近に優れた芸術・文化にふれる機会の充実と住民の自主的な芸術・文化活動の支援を行っている。	映画や音楽、演劇等の鑑賞会など、住民が身近に優れた芸術・文化にふれる機会の充実と住民の自主的な芸術・文化活動の支援を行っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	住民が優れた芸術や文化にふれることで、住民自らが積極的な文化活動等への参加促進が求められる。	住民が優れた芸術や文化にふれることで、住民自らが積極的な文化活動等への参加促進が求められる。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町内での芸術・文化鑑賞の機会の年間延回数						
	定義等	芸術・文化鑑賞機会の年間回数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	7回	4回	6回	4回	5回		10回
指標2	指標名	おうむ陶芸工房の年間延利用者数						
	定義等	陶芸工房の利用者数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	586人	510人	509人	412人	424人		600人
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	芸術文化公演事業	生涯教育係	3,481	A	継続/現状維持	A
②	陶芸推進事業	生涯教育係	779	A	継続/現状維持	A
③	社会教育関係団体活動費補助事業	生涯教育係	650	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	芸術・文化活動の促進については、住民の文化意識の向上と文化的行動を高めていくうえで重要な施策である。
② 有効性	A	本施策の実施により、芸術・文化に対する住民意識が高まってきており、有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	A	本施策に対する事業展開については、各種助成金を活用するとともに、適正な事業予算の執行により、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	本施策の効果は、地域住民全体に及びことから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	芸術・文化活動の促進については、社会教育委員の会議のほか、町民の要望等も取り入れながら、対応を図っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
芸術・文化活動の促進については、関係事業を効果的に進めてきたところであり、文化団体等による自主的な活動も行われていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性	今後の方向性	今後の方向性
継続/現状維持	継続/現状維持	
住民の文化意識の向上と優れた芸術に触れる機会を提供していくため、引き続き本施策を継続するとともに、自主的な文化活動等の支援について促進を図っていくものとする。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	53
基本施策	14	芸術・文化の振興	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	3	新たな文化の創造		

1 施策の概要

基本方針	近代化遺産や産業技術、生活民芸品、アイヌ文化、さらには趣味活動やエピソードに至るまで、これまで評価されていない潜在的な文化資源の発掘に努め、新たな文化資源として活用する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	これまで評価されていない潜在的な文化資源については、その発掘等の取組みがされていない状況にある。	これまで評価されていない潜在的な文化資源については、その発掘等の取組みがされていない状況にある。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	本町の文化の再発見を含めて、有形無形を問わない新たな文化資源の発掘により、住民の文化意識の向上が求められる。	本町の文化の再発見を含めて、有形無形を問わない新たな文化資源の発掘により、住民の文化意識の向上が求められる。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①						
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	D	新たな文化の創造については、本町の地域文化の掘り起こしと住民の文化意識の向上の啓蒙として必要とされる施策であるが、その取組みが低い状況にある。
② 有効性	D	新たな文化の創造については、取組みが弱かったところがあり、今後有効な施策の推進を図る必要がある。
③ 効率性	D	新たな文化の創造についての施策を構成する事業展開が弱かったことから、今後効率性のある施策の展開を図る必要がある。
④ 公平性	D	本施策を構成する事業展開が弱かったため、公平性の評価について低いものとした。
⑤ 町民意見の反映	D	新たな文化の創造については、現段階で特に町民意見の反映を要しないものである。

5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
D	D	
新たな文化の創造については、直接的な取組みが弱かった面があったので、必要な見直しを行いつつ、施策目的に沿った展開を進めていくものとする。	同左	

今後の方向性

継続／内容の見直し・変更	継続／内容の見直し・変更	
新たな文化の創造については、住民への啓発等をはじめとした関係する対応の検討を進め、潜在的な文化資源の発掘に努めていくものとする。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止